

バングラデシュ経済特区開発事業 (PE出資)



経済特区の開発・運営を通じて、本邦企業のバングラデシュ進出や同国の産業高度化を支援

事業概要

バングラデシュ経済特区(BSEZ)の開発等を担う Bangladesh SEZ Ltd.社(BSEZL社)に出資するもの。BSEZはナラヤンガンジ県アライハザール郡(ダッカから東に約20km)に位置し、開発面積は約190ha。BSEZL社は2019年に住友商事とバングラデシュ経済特区庁(BEZA)の間で設立された合弁会社。

本事業のポイント

1. バングラデシュ初の日本主導の経済特区

BSEZの開発は2014年の安倍首相(当時)・ハシナ首相間の首脳会談において提案された国家プロジェクトであり、その後も経済特区の開発計画策定や周辺インフラ開発、BSEZL社の設立等を日本の官民がオールジャパンで取り組んでいる。

2. JICAによる包括的な支援

JICAは以下のスキームを通じてBSEZの開発を包括的に支援：
①円借款にてBSEZの周辺インフラ(道路・電力設備等)の開発を支援、②円借款にてBEZAによるBSEZL社への出資金をバックファイナンス(Equity Back Finance)、③技術協力にて経済特区向けのワンストップサービスセンター設立を支援。

3. バングラデシュの産業高度化・多角化を支援

バングラデシュは既製服(RMG)産業に強く依存する経済構造であり、バングラデシュ政府は外国直接投資の促進を通じて産業構造の多角化を目指している。質の高いインフラを併設するBSEZは、外国投資による高度産業の集積地となることが期待されている。

